

ミツマ沼ビオトープ



著作権：荒川上流河川事務所 制作：公益財団法人 日本生態系研究会  
TEL: 049-220-0145 (河川課携帯) 〒350-1124 埼玉県川口市新町3-12  
郵便番号：333-0014 埼玉県川口市新町3-12-1-1-1

車両通行料金：100円、軽自動車100円、大型車200円  
電話番号：049-220-0145 (河川課携帯) 〒333-0014 埼玉県川口市新町3-12-1-1-1

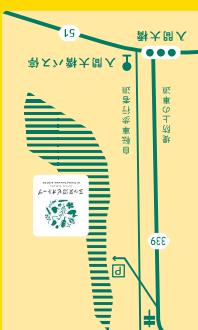
お問い合わせ



【主な施設】西口の付近に「川越駅」(JR川越線)・埼玉医科大学

【主な施設】東口の付近に「川越駅」(JR川越線)・上尾駅・上尾駅付近の駅前商店街

車両通行料金：100円、軽自動車100円、大型車200円  
電話番号：049-220-0145 (河川課携帯) 〒333-0014 埼玉県川口市新町3-12-1-1-1



学びながら、自然を守る。



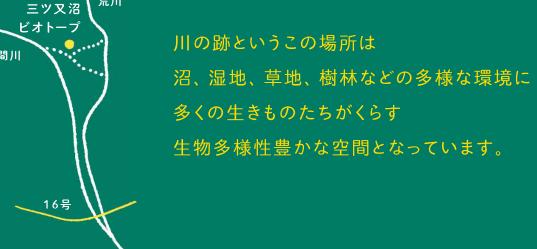
自然に親しむこと、知ること、かかわりつづけること。  
さまざまななかたちで、人と自然がつながり理解を深めることで  
自然環境は守られ、未来へと続いていきます。

ミツマ沼ビオトープは、散策はもちろんのこと  
ボランティア活動、学校の環境学習、  
企業のSDGsへの貢献、研修など  
どなたでも、自然に触れながら、自然を学べる場です。



もともとは、川の合流点。

奥秩父の山々から水を運んでくる荒川。  
埼玉県を横断するこの川の中ほどで  
飯能市の大持山からすぐ入間川と  
かつて合流した場所がミツマ沼です。  
河川改修で川の流れは変わりましたが  
昔の合流地点は湿地として残りました。



川の跡というこの場所は  
沼、湿地、草地、樹林などの多様な環境に  
多くの生きものたちがくらす  
生物多様性豊かな空間となっています。

地域の人々の、意気。

この自然環境は、たまたま残ったものではありません。  
地域の人々や環境保護団体が、貴重な自然を残したい想いから  
荒川上流河川事務所に協力をもとめたことで、土地が取得されました。  
「ミツマ沼ビオトープ」と名付けられたこの場所は  
現在も市民、行政、専門家が協力しあいながら守り続けています。



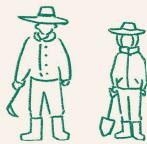


# 「自然を支える」を、体験してみませんか。

三ツ又沼ビオトープの自然環境の維持に欠かせないもののひとつとして、ヨシの刈り取りがあります。この刈り取りには、湿地の維持や、春の植物の発芽を促すなど、さまざまな効果があります。ヨシ刈り以外にも、一年を通して外来植物の抜き取りなどを行っています。ぜひ実際に体験しながら、三ツ又沼の四季を感じてみてください。

例えば冬にヨシを刈ると

こんな循環が生まれます



湿地に入る準備を整えて

日本の湿地は今!  
昔は日本のかなりの所に湿地がありました。生物多様性の宝庫と言われる湿地ですが明治・大正時代から比べると約60%が開発などで失われてしまいました。

日本の湿地 約60%減  
出典：国土地理院「日本全国の湿地面積の変化の調査結果」

背丈より  
ずっと高いヨシを  
刈りとり運びます



刈ったことで  
地面に日が当たり



天候などのタイミングが  
合った時は、刈らずに野焼きすることもあります。

やがて春には小さな  
植物が芽を出し



どちらも小さな湿性植物。荒川でも  
られた場所にのみ生育しています。

新しくスッと伸びたヨシに  
カヤネズミは巣を作ります

カヤネズミ



見通しがよくなると  
鳥が虫を食べに来たり  
猛禽類が姿を現します



とても目の良い猛禽類は、  
空の高いところからでも生きものたちを見つけます。

学校や家でも  
体験できる!



近隣の学校などと、荒川にもともとある在来の草花やハンノキを育て、植え戻しています。

## 人がかかわり 維持する

かつて川は氾濫するなどしてヨシが流され、湿地の植生が保たれていました。川の流れが変わった今は、このような「かく乱」は少くなり、人が手を入れることで湿地の環境と生きものの暮らしを守っています。



SUSTAINABLE  
DEVELOPMENT  
GOALS



体験内容は、HPをチェック!

個人・企業・学校などに応じた体験ができます  
団体は体験内容の希望をご相談ください

Start!



9:00  
オリエンテーション

木道を抜け  
目的地へ



13:00  
食後は自然観察  
9:10  
外来種を刈ります!



今日の振り返り  
14:00



お疲れさまでした!